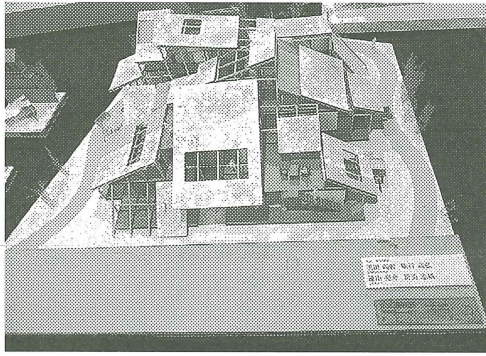


最優秀賞「街の遊牧民」の作品模型



ポラス（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）はさいたま市大宮区内で23日、第8回「POLUSポラス」学生・建築デザインコンペティション」の公開審査会を開いた。557点の応募から1次審査を通過した5作品を審査。最優秀賞に「街の遊牧民」（工学院大学大学院・黒田尚幹さん、除村高弘さん、工学院大学・遠山亮介さん、新美志織さん）を選定した。優秀賞は「歩く、暮らす、歩く、はたらく」（名古屋工業大学大学院・田上功也さん、藤田倫也さん）。

コンペのテーマは「リモートスタイルハウス」。約1300平方メートル敷地に7世帯程度が暮らすことを想

最優秀は黒田さんら「街の遊牧民」ポラス学生・建築デザインコンペ

定。木の家による職住が接近する魅力的な提案を求めた。

最優秀作品は空き家などの未利用空間を活用し、羊と共存しながら周囲に開かれた住宅群を提案した。高い場所を好むヤギの習性を考慮した建築形態を採用。住戸と接続できる小型輸送機器「YAGI-CAR」の導入なども盛り込んだ。優秀賞作品は7戸の住宅を帯状に結び「暮らしながら通勤できる」空間を提案した。

最優秀賞の除村さんは「ヤギとの共存だけではなく、外に開かれた空間を考えた」、遠山さんと黒田さんは「4人の共同作業で飛躍と思われる発想も生かして設計した」、新美さんは「ライブ感を楽しみながら設計できた」とコメントした。

審査は建築家の西沢立衛氏（横浜国立大学大学院教授）を委員長として計5人の審査員が行った。

最優秀賞、優秀賞を除く入選3作品は次の通り。敬称略。

- ▽「折り重なる内外空間―巣と森の関係から生み出す新たな人間の森―」（近畿大学大学院・三谷啓人、岩間創吉）
- ▽「小さく囲われ大きく囲む63卓の庭」（京都市芸繊維大学・守本愛弓）
- ▽「1時間×空間×隙間」（早稲田大学大学院・張沢夫）。